

新日本歌人協会 九州・山口近県集会在阿蘇 実行委員会新聞

2013年3月20日号
電子メール
ohataya@gmail.com

■ 会場の下見をしました

去る3月6日、実行委員一同で現地見学会とホテルとの打ち合わせをしました。が、あらためて会場のすばらしさを身をもって感じました。参加したみんなが「この会場だと、自信を持ってお誘いできる」と、好印象。受け入れ準備にもいっそうの力がはまりました。

ちなみに、初日の松下紘一郎さんの記念講演の会場は阿蘇五岳を一望できるホールです。息を呑むような光景のなかでの短歌三昧の二日間をご堪能下さい。

■ 六〇名を超えました

阿蘇集会への参加申込みは、おかげさまで六〇名を超えることが出来ました。高齢化がすすむなか、昨年は参加できたが、今年は困難という方も多く、年を追うごとに参加へのハードルが高くなっていることを感じました。

体調はもちろんですが、諸事情を乗り越えて参加される皆さまに、実行委員会一同心より感謝を申し上げます。阿蘇集会で、たくさんの感動を共有しましょう。



広々としたメイン会場

講演会・合評会・懇親会、
すべて椅子席ですので足
の悪い人も安心です。



記念講演、歌会とも、会場から阿蘇五岳を眺望できます

紹介 熊本の歌人が

詠った阿蘇 2

実行委員の寺内實さんが選んだ地元歌人の秀歌です。

(宮川久子歌集・光ほのか) 1971

ころざし埋もれむことを懼るるに吾が
目のあたり白き花野や

亂れつつ打伏す萱のいつしかも冬陽のな
かに乾き果つべし

貼り付けし影繪のごとき山見ゆる激しき
夕の茜を負ひて

うしろにて我が影法師踏まれぬむ一筋の
径かへりみざれど

(同・連灯) 1979

霜に浮く霾よな土畑に萌え出でてあはれ外輪
の麥育ちゆく

高原に直射す天の光澄みわが足もとに母
子草揺る

人も馬も小さく見えて天つ日の光しんし
んと草千里濱

人間の定めし境界線なれば牛やすやすと
踏み越えてゆく

ひくきより昏れてゆきつつ高原の夕べの
空に泛く春の星

(荒木茅生歌集・瀝瀝) 1991

耳のうちに鳴る風を聴きみたり阿蘇波野
駅今日より無人

末黒野の荒野をゆくに生き溜めしいのち
の帰趨ここにしてみゆ

舟歌の末尾うすれて男佇つ汽車待てど来
ぬ阿蘇無人駅

呆け立つ尾花の末路、われもかく茜に熟
れし岐れ路いそぐ

(原田昭子歌集・雪あつの森) 1972

己れ鞭うつこともなかりき山深く杉の樹
幹に掌をあてていつ

霧雨は山の間より流れきて薄の原ににじ
みゆくなり

月照れば野原いちめん野の花の匂いて我
れのうつつともなし

いつきても夜峰山はも寂しきに秋風の中
をまた登りゆく

紅葉の激しき山を降りゆくに樹の哭くこ
えのきこゆるごとし

雪山にひと日雪ふみかえりきてぬぐいし
ごとく靴の光れり

冬枯れの山尾根ひとつ越えしよりこころ
はもろく君をよぶなり

(塚本諄歌集・一身) 1993

あした澄む阿蘇にはげまされ車駆る住め
ば都と風景待む

阿蘇が噴き灰吹かれきてはつか積む車を
今朝も発進さすも

くきやかにこむらさきの稜うき出でて凜すず
しくまるし宵の秋阿蘇

○ 江崎 洋子さん

(2013年3月定例歌会より二首)

終活を早くせねばと思いつつ日々の暮しに追いまくらるる
ひな祭りですよと声をかけながら亡き妹にひなあられ供う

短歌は九年ほど前に国宗さんに誘われて、一度は断りましたが、今では毎月の例会が楽しみです。年月だけ経って今も初心者の域を出ませんが、ベテランの方々を教えていただいで何とかつづいています。近県集會参加の皆様とご一緒に春爛漫の阿蘇を満喫したいと思っています。

実行委員の紹介

○ 竹山 真知子さん

(竹山さんの近作から二首)

砂時計小さく積もる砂山に幾度も探す・時・の行き先

落花生黄色き花を地に降ろし地中にゆらす莢さやのゆりかご

2010年4月に宮崎で行われた近県集會に初めて参加して、毎年参加するのが目標になりました。熊本支部の歌会には毎回ワクワクドキドキしながらの参加です。短歌初心者の中には、学ぶ事が多く楽しい歌会です。

〈特技は道案内〉

熊本でも出張先でも、なぜ私に?と思うほどあらゆる年代の方や外国の方まで、道や電車を尋ねられます。全く知らない女性にランチのメニューを相談された事も。熊本へお出かけの皆さまには、おもてなしの心でお待ち致しておりますので、どうぞお声をかけてください。

○ 大畑 靖夫さん

今回の近県集會の事務局長をさせてもらっています。近県集會に参加して下さる歌人も年ごとに高齢化が進んでいると、改めて実感しました。体力に自信のない方も安心して当集會を楽しんでいただけるようにと心がけていますので、お気づきの点、ご要望なんでもお申し出下さいませ。

〈特技はITです〉

仕事ながら、パソコンを毎日使っていますので、当然のことながら、インターネットを駆使して、メールやフェースブック、ホームページなどを使って当集會の案内も広く発信しています。

が、見る人がきわめて少ないのが、「新日本歌人」の特徴でもありました・・・残念。

先日、熊本近代文学館主催の「311朗読とメッセージの集い」に、同じ実行委員の寺内實さんとともに参加。持ち時間の10分を使い、動画と短歌の朗詠で、311を表現しました。

車椅子を利用できます

きます

会場内はバリアフリーとなっており、すべて車椅子で移動することが可能です。常設してある車椅子に限りがありますので、利用をご希望の方は事務局までお知らせ下さい。



蕎麦体験もあります

会場のある久木野地区をはじめ、阿蘇は蕎麦処としても有名です。

会場の近くには(車で3分)、久木野「そば道場」があり、そば打ち体験(約40分)もできます。午前10時から午後15時まで申し込めば体験できますので、時間に余裕のある方は集會の前後の時間にご利用下さい。

*価格は四人で三八〇〇円

くまもん登場

全国のゆるキャラ人気No.1の熊本県の「くまもん」が当集會の横断幕に登場します。厳しい審査を経て使用許可が与えられました。当日、お楽しみに!



素敵な手刷りしおりを準備中です

実行委員の一人、版画家の奥山直人さんが、オリジナル版画のしおりを一枚一枚丁寧に刷っています。集會参加の素敵な思い出グッズとなるとと思います。

書籍コーナーを設置します

■講師の松下紘一郎さんが 最新歌集「吃水ふかく」二〇冊を、今回の集會の財政支援にと寄付して下さることにになりました。二五〇〇円です。

■「熊本民主文学」最新号に、短歌部門に上田精一(人吉支部) いつか来た道 四四首と、「なお竣はならぬ夢よ」一〇〇首(寺内 實)掲載。七〇〇円です。

どちらも当日会場でお頒けします。また参加の皆さんで、紹介したい出版物などございましたら是非お持ちください。バザールコーナーを作りました。